



岐阜大学教育学部  
国語教育講座

根岸 泰子教授

文学研究に今、大きな

このような話に抵抗

使命があるはずです。

地殻変動が起こっています。私の専門分野の近現

感を持たれる方も多いでしょう。しかし、小林

ダーハウスの「ノルウェイの森」は、日本文学として

歴史的・学際的に解析し直しています。そこでこれまでの手あかにまられまで

ています。

教育の講義にもつながっていきます。そして私の講

た。  
だとすれば、現代の文

学研究にはそれらを等距離から見据え、双方の深い断絶に架橋する責任と

私が日本文化の豊穣実感するのはそんな時であります。

## 今を生きる文学研究

石と並んでジブリアニメーションが大学の講義や研究で扱われています。ここでは漱石もナウシカも「文化現象」として等価なのです。世代の共感を集めましかけなかつたような鮮や

ぜつたいに理解不能な村上春樹の「ノルウェイの森」は、日本文学としてこれまでの手あかにまられまで

ています。そして私の講義や研究への学生諸君のリアルな共感や批判が、いつも変わらず私の支えとなっています。

(岐阜大学教育学部国語教育講座教授・根岸泰子)

かな輝きを見せる瞬間が